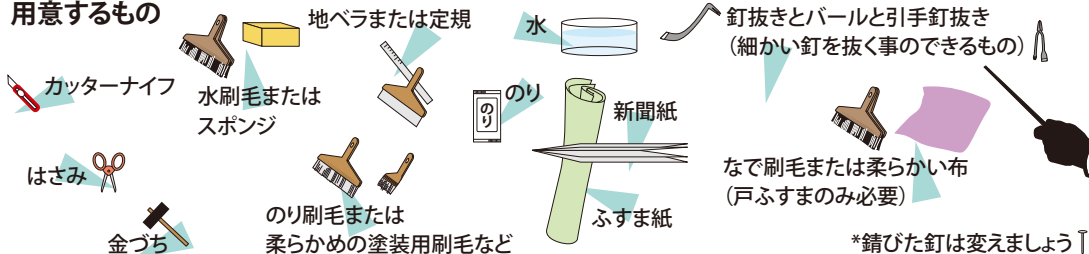


# Do It Your Self・ふすまの張替え

自分で張替えするなら、既存のふすま紙を張ることもできるし、さまざまな色のふすま紙を利用して、飾り張りをする事も出来る。基本はふすまの「地」となる部分をきれいに張れるかどうか。ここでは、その「地」となるふすま紙の貼り方を伝授します。



## 用意するもの



## 張替える場合、今まで貼られていた上貼りの紙は「はがす」のか？それとも「上から貼る」のか？

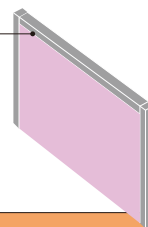
### 【戸ふすま・発泡スチロール・段ボールふすま】

必ずはがします。発砲チロールふすまや段ボールふすまは、表面にアルミ箔が貼られています。アルミ箔がはがれないように注意してください。

### 【本襖・チップボール襖】

はがしてしまう事もできますし、上から貼る事も可能です。(はがすのは、上張りの紙のみ) 上から貼るのは、2枚程度が限度。それ以上になると、棧からふすまの本体部分が出てきてしまい引き違える際にふすまとふすまがこすれる事があるので、注意しましょう。

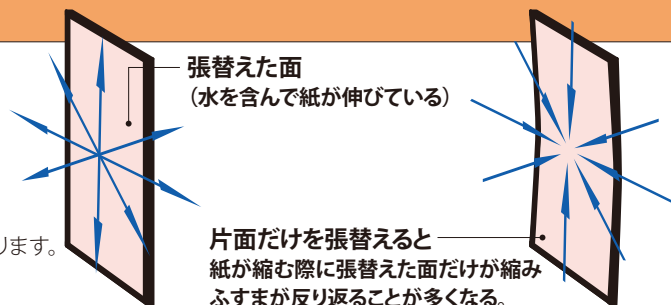
ふすまフチと本体に段差が出来ない程度が目安



## 片面だけの張替えはしない

ふすま紙は、紙繊維に水を含ませ膨張させて貼るため、乾燥した際に紙が縮みます。片面だけを張替えると、乾燥の際に紙が本体までもゆがめてしまう事が多いため、張り替えをする際は、両面張替えをしましょう。

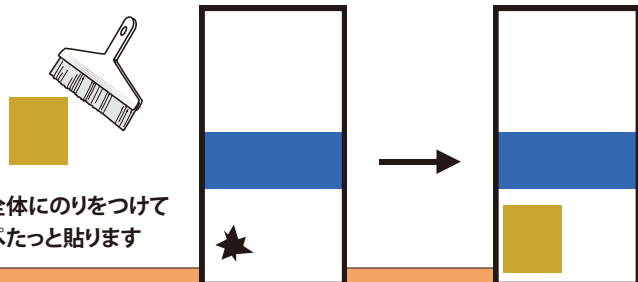
- ・両面を張替えた場合、両面が縮むので ふすまが反り返る可能性が少なくなります。
- ・上質なふすま紙ほど、紙の伸縮が激しくなり張替えの難易度が増します。



片面だけを張替えると紙が縮む際に張替えた面だけが縮みふすまが反り返ることが多くなる。

## 破れたふすまの補修の仕方

ふすまが破れている場合は、破れた部分に紙を貼り補修をします。補修に使用する紙は、基本的にはなんでもOK。あまり薄すぎず、表面に段差の出来ない程度の厚みの紙を選びましょう。



全体にのりをつけてべたっと貼ります

## 新しい引手

量産品の引手は、厚みも薄く、パールなどで外す際にゆがんでしまうことがあります。また、ボンド付けされたプラスチックの引手は、割れる可能性があるため、新しい引手に変えるなども考慮しましょう。

## ふすまのすべりが悪い

長年使用していると、ふすまのすべりが悪くなります。敷居に「イボタロウ」をぬると、すべりが良くなりますよ。

イボタロウムシの分泌物から抽出したもの。桐タンスのつや出しや木材の仕上げ用にも利用される (税込み368円)



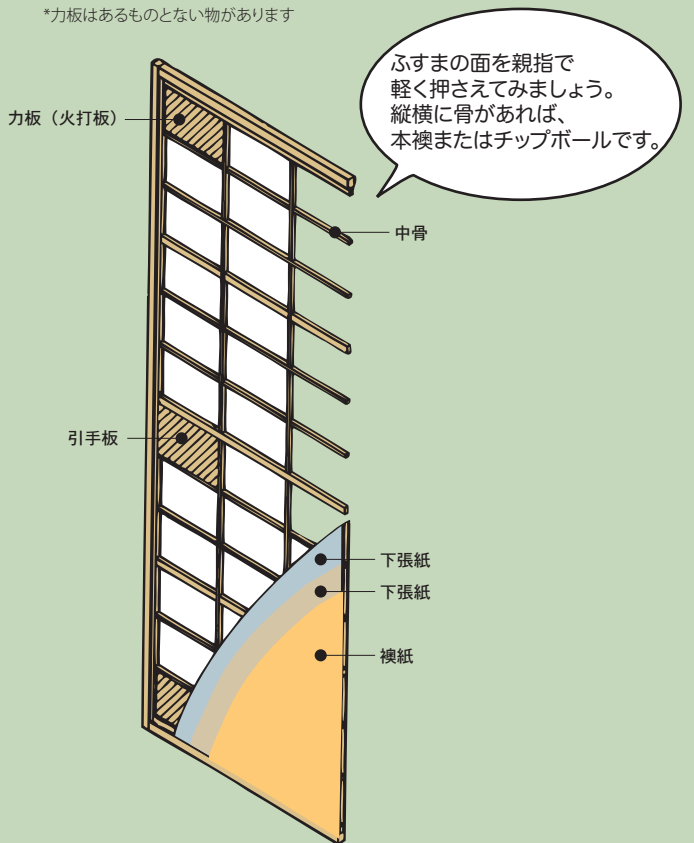
1 まずは、「ふすまの骨組み」を調べます

ふすまの表面を軽く押さえてみて「骨」があれば、本襖またはチップボール襖です。  
骨がない物は戸襖または発砲スチロール、段ボール襖です。

本襖・チップボール襖の構成 → 引手を外したらP.3へ

ふすまフチを外して張替えます

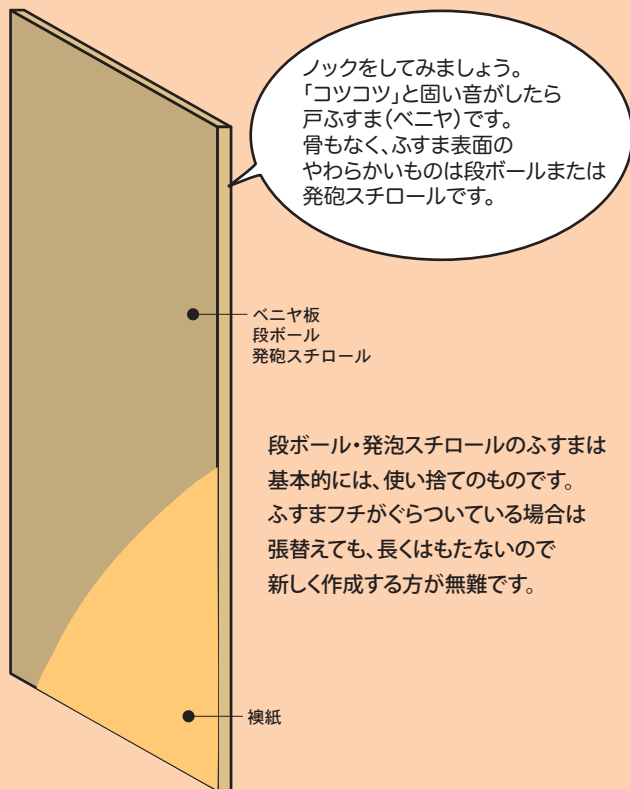
\*力板はあるものとなない物があります



- ・本 襖…木製の格子組にして、伝統的な工法により作られる襖
- ・チップボール襖…木製の格子組にして、  
下張りを簡素化するため厚手の紙を貼られた襖

戸襖・段ボール・発砲スチロールの構成 → 引手を外したらP.5へ

ふすまフチは外さずに張替えます

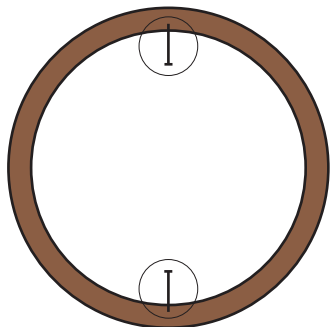


- ・戸 襖…洋間と和室を仕切る際に使用されるベニヤ板を使用した戸
- ・量産襖…簡略化、大量生産するため、  
発砲スチロールや段ボールなどを下地にしたもの

2 引手を外します

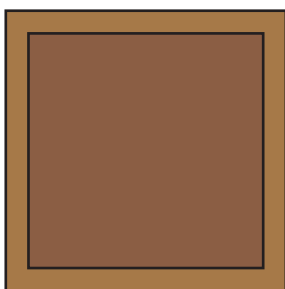
引手にも種類があり、釘でとめられているもの、またプラスチックではめ込み式のもの、ボンドづけなどがあります。量産の使い捨てを前提に作成された引手は壊れやすいので、再度使用する場合は注意して外して下さい。

金物引手はほとんどこのタイプ



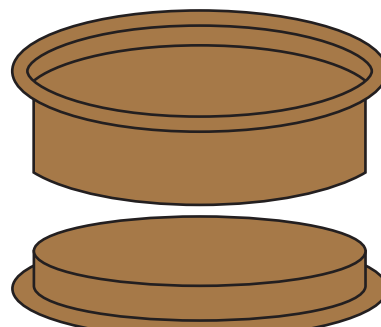
【上下を引手釘で止めてあります】  
引手釘を抜き、ボールなどで外す

木製およびプラスチック



【ボンドで止めてあります】  
ボールなどで外す

プラスチック



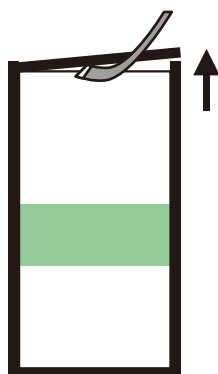
【プラスチックはめ込み型】  
前後に引き抜く

### 3. 本襖・チップボール襖 ふすまフチを外します

通常上下はほとんどの場合釘止めですが、左右は「釘止め」または「棧の中に仕掛け」があり、簡単に外れるようになっています。「釘止め」の場合は、ボールなどで外して下さい。

外したフチには、後から「どのふすまのどのフチか」がわかるように設置後見えなくなる場所に印をつけておきます

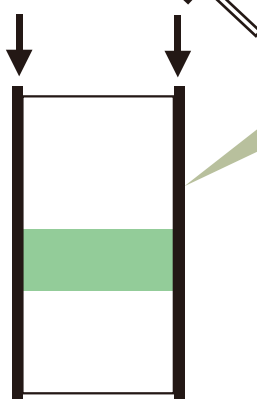
1. ボールなどで外す



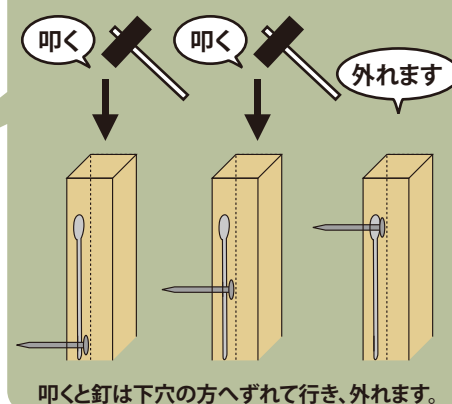
2. ふすまフチを

左右から見る。  
釘頭が見えていれば「釘打ち」なので、左右もボールなどで外す。  
釘頭が見えなければ右「3」のようにふすま上部から金づちで叩いて外します。

3. ふすま上部から叩く



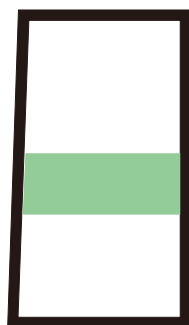
棧の中側の構造



叩くと釘は下穴の方へずれて行き、外れます。

### 4. 本襖・チップボール襖 ふすまの大きさに合わせてふすま紙を切ります

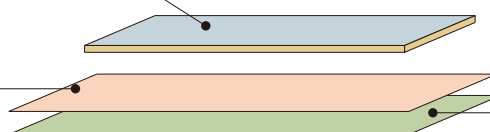
ふすまは長年使用していると狂いが生じてきます。そのため、ふすまの長さが変わってしまっていたりするので、紙を切る際には、襖の大きさに合わせる作業が必要になります。ふすまより周囲1cmほど大きめに切ります。



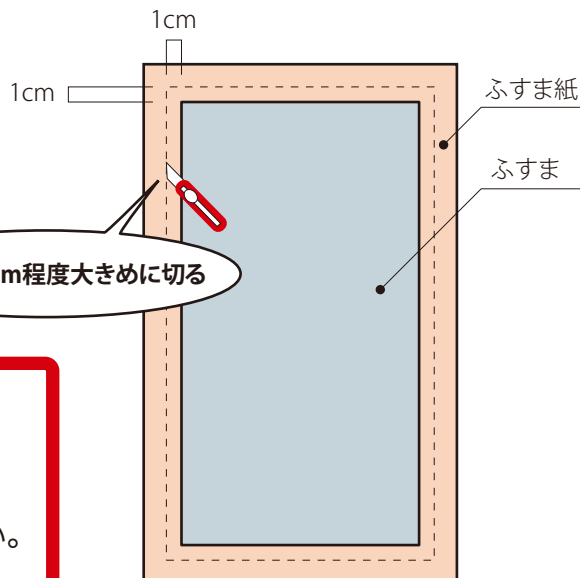
既存の襖

張る面を下に向くように置く(張り替える襖)

表紙の裏を上置く  
(柄のある方を下に)



裏紙の表を上置く  
(柄のある方を上に)



左右上下1cm程度大きめに切る

紙を襖に合わせて切る



#### 注意事項

紙を切り終えた後、どちらが上だったのか分からなくなることがあるので、紙の裏面に印をつけるなどの工夫をしてください。

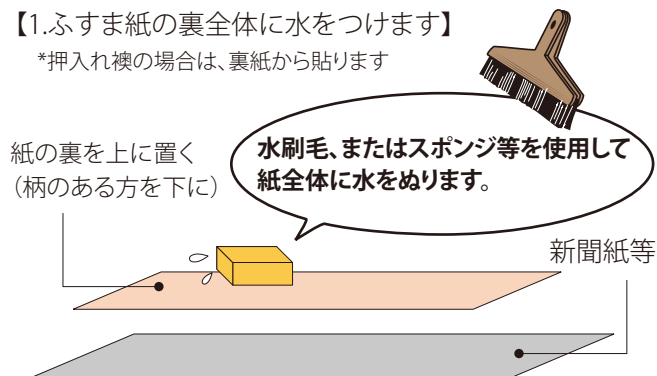
## 5. 本襖・チップボール襖

**ふすま紙を貼ります** お部屋の中で作業をされる場合は、新聞紙などを敷き、床がぬれないように注意してください。

ふすま紙の裏全体に水をつけます。水刷毛などが無い場合は、台所用のスポンジなどで代用します。  
ふすまの骨を壁などに立てかけて、縁のまわりに糊を均一にぬり、紙を貼ります。

### 【1.ふすま紙の裏全体に水をつけます】

\*押入れ襖の場合は、裏紙から貼ります



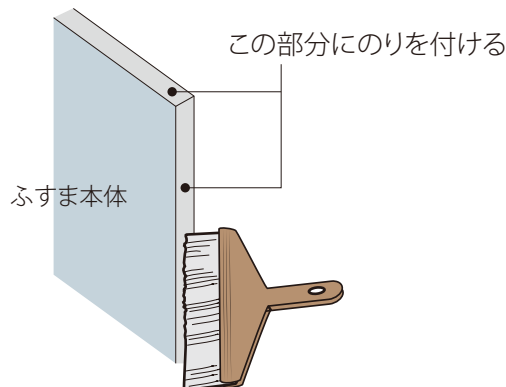
水刷毛、またはスポンジ等を使用して紙全体に水をぬります。

紙の裏を上置き  
(柄のある方を下)

新聞紙等

水をぬって、しばらく放置すると、繊維に水がしみ込み紙が伸びます。紙が伸びた状態でふすまに貼ると、乾いた時にシワが伸びて、きれいに仕上がります。

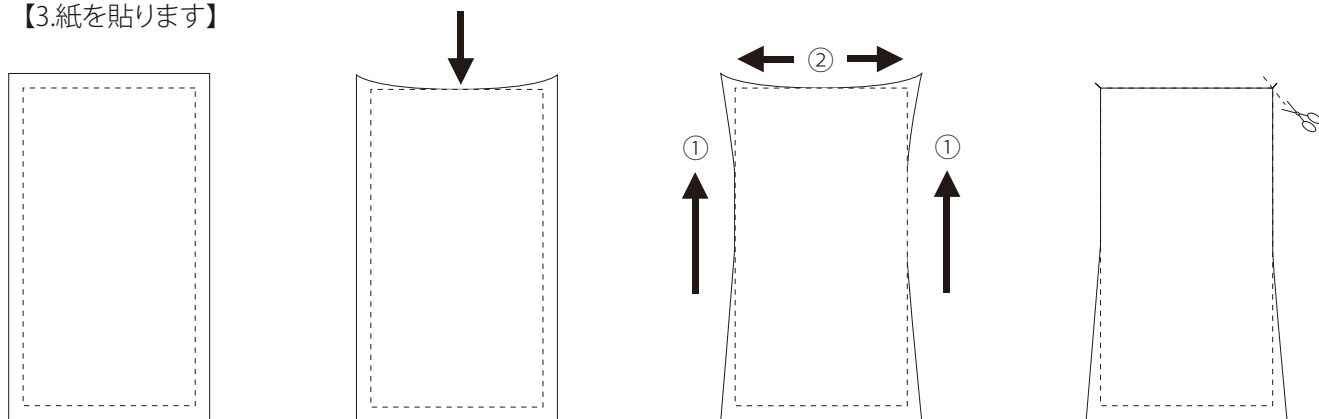
### 【2.ふすま本体の縁のまわりに糊を均一にぬります】



この部分にのりを付ける

ふすま本体

### 【3.紙を貼ります】



紙を左右上下に均等に、ふすま本体を被うように紙を当てます

ふすま紙を上部真ん中で一点押えます

再度、紙の位置を確認。左右に均等に置き、横に引っ張り気味にして糊をつけたあたりを下から上へ押さえ、紙をふすまに付けてゆきます。最後に上もつけます。

角をしっかり出し、出た部分ははさみで切り落とします。ふすまの上下を返して同様に紙を貼ります。

## 6. 本襖・チップボール襖

**紙が乾いてから、棧をつけます**

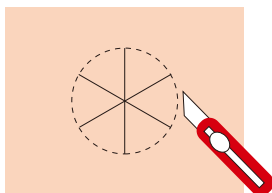
紙が乾いたら、棧をつけます。ふすまの棧は、「釘打ち」であれば、ふすま釘を使って付けます。はめ込みのふすま棧であれば、フチ用の釘を使って釘を元の穴に差し込み、釘とフチの内側にある穴を合わせてふすまの下から金槌などで叩いてはめ込みます。

## 7. 本襖・チップボール襖

**引手をつけます**

引き手をつける部分にカッターナイフで切り目を入れ、引手をつけます。

- ・釘打ち…引手釘を使用
- ・ボンド止め…木工用ボンドなど
- ・はめ込み…前後からはめ込み



引き手をつける部分に切り込みを入れる



### 注意事項

#### 1. カッターの刃はこまめに替えましょう。

襖紙は水を含んで非常に切れにくくなっています。無理矢理に切ろうとすると紙がすぐに破れてしまうので勿体無いと思ってカッターの刃をこまめに替えれば襖紙を無駄にすることはありません。

#### 2. 糊は気持ち固めに作ります。

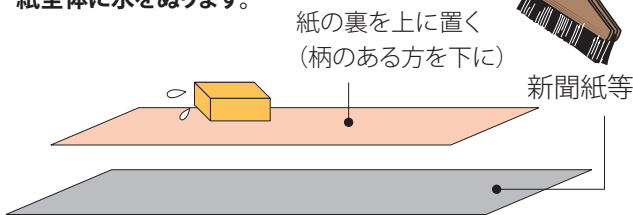
### 3. 戸襖・段ボール・発泡スチロール

#### ふすま紙全体に水をつけます。

\*お部屋の中で作業をされる場合は、新聞紙などを敷き、床がぬれないように注意してください。

ふすま紙の裏全体に水をつけます。水刷毛などが無い場合は、台所用のスポンジなどで代用します。

水刷毛、またはスポンジ等を使用して紙全体に水をぬります。

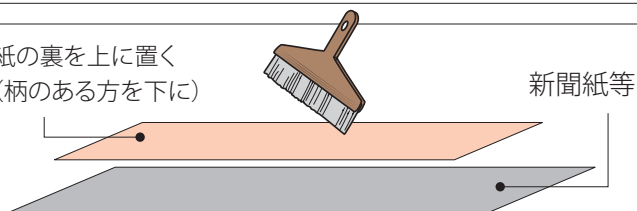


### 4. 戸襖・段ボール・発泡スチロール

#### ふすま紙全体に薄くのばしたのりをつけます。

ふすま紙の裏全体に薄いのりをつけます。

紙の裏を上に着く (柄のある方を下に)

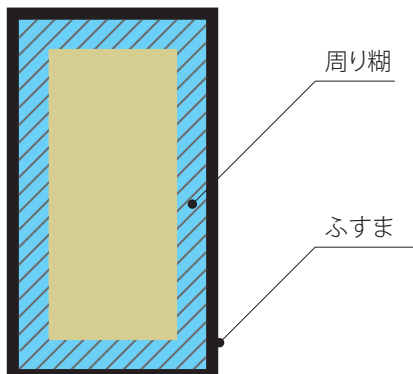


### 5. 戸襖・段ボール・発泡スチロール

#### 戸ふすま本体に「周り糊」をつけます

ふすまの本体に「周り糊」をします。

##### 【1. 周り糊をします】



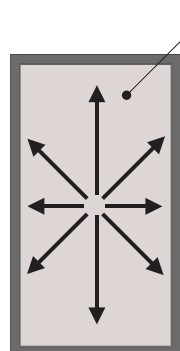
戸ふすまに直接、のりをつけます。この作業を周り糊をするといひます。(水色の部分にのりをつけます)

### 6. 戸襖・段ボール・発泡スチロール

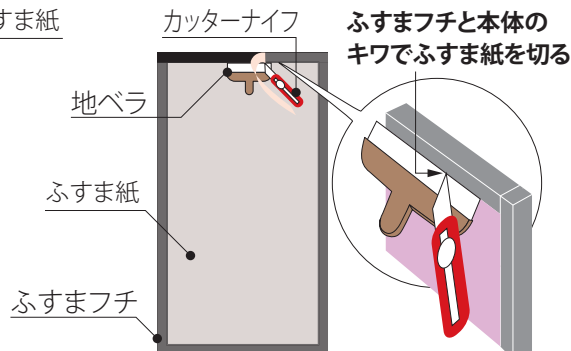
#### ふすま紙を貼ります

ふすま紙を刷毛を使って貼り、ふすま縁のキワに合わせて、本体から出た部分を地べらを使用し、カッターナイフで切り落とします。

##### 【1. ふすま紙を貼ります】



##### 【2. 本体から出た部分を切ります】



ふすま紙全体を本体に接着するため通常は刷毛を使用します。刷毛が無い場合は、やわらかい布などでシワが出来ないように、また、中に空気が入らないようにふすま本体に中心から放射線状に紙をなでつけてゆきます。ふすまフチからはみ出た紙を地べらとカッターナイフを使って切り取ります。

### 7. 戸襖・段ボール・発泡スチロール

#### 紙が乾いたら引手をつけます

紙が乾いてから、引き手をつける部分にカッターナイフで切り目を入れ、引手をつけます。



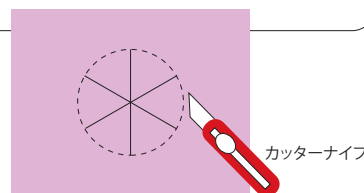
#### 注意事項

##### 1. 周り糊とベタ張りののりは濃度が異なります。

周り糊とベタ張りののりは濃度が異なります。用途によって、のりの希釈割合を変更しましょう。

##### 2. カッターの刃はこまめに交換しましょう。

襖紙は水を含んで非常に切れにくくなっています。無理矢理に切ろうとすると紙がすぐに破れてしまうので勿体無いと思ってもカッターの刃をこまめに交換すれば襖紙を無駄にすることはありません。



引き手をつける部分に切り込みを入れる